

氏名・生年月日	霜越 多麻美		
学位（専攻分野）	博 士（看護学）		
学 位 記 番 号	千大院看護博甲第193号		
学位記授与の日付	平成30年9月30日		
学位記授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
学 位 論 文 題 目	組織学習理論を用いた健康づくりのための地域組織活動モデルの開発		
論 文 審 査 委 員	（主査）教 授	吉本 照子	
	（副査）教 授	宮崎 美佐子	教授 北池 正
		准教授 石丸 美奈	

論 文 内 容 の 要 旨

1986年にヘルスプロモーションが提唱され、世界的に住民による組織的な健康づくり活動が強化、推進されてきた。日本でも健康づくりのための地域組織活動が行われてきたが、活動の形骸化や後継者不足など継続への課題が指摘されている。本研究は健康づくりを目的とした地域組織活動の継続・発展、及びその支援に寄与するため、組織学習の視点から地域組織活動モデルの開発を目的とした。

本研究は、地域組織活動モデルの仮説的モデルの作成、仮説的モデルの内的妥当性の検証、実用可能性の検証の順で行われた。

仮説的モデルの作成は、組織学習理論を基に作成した概念枠組みに沿って、20年以上地域において健康づくり活動を継続している2団体へ事例研究方法を用いた調査を行い、地域組織で実践されている組織学習の構造と活動との関係性を明らかにした。さらに結果に基づき概念枠組みを加筆修正し仮説的モデルとした。

仮説的モデルの内的妥当性の検証は、地域組織への支援経験がある3自治体の保健師に面接調査を行った。仮説的モデルは地域組織における組織学習の現状を説明できるが、保健師が活用するために具体例とモデルを関連付け、イメージしやすい構図を中心に意見が示された。結果と先行研究を基に項目の関係性を確認した上で精練し、内的妥当性が得られた仮説的モデル（以下、モデル）とした。

実用可能性の検証は、地域組織を担当し課題を持つ3自治体の保健師に各2回の面接調査を行った。初回面接は研究者によるモデルの説明後、提示された課題について保健師が研究者と共にモデルを用いて対応策を検討した。2回目の面接は対応策に基づいた保健師の変化とモデルへの評価を調査した。その結果、保健師の対応策を踏まえた課題解決への認識や具体的な行動が示され、モデルを用いることにより地域組織活動の評価と保健師としての支援の方向性を策定できることが見出され、モデルの実用可能性が示されたと判断した。

論文審査の結果の要旨

住民による組織的な健康づくりは、ヘルスプロモーションの一環として、世界的に推進され、保健政策の実現等に資すると期待されている。日本でも各地で地域組織活動が行われてきたが、活動の形骸化や後継者不足等の課題がある。

本研究は、これまで企業組織の活性化・発展に活用されてきた組織学習に着目し、保健師が地域組織活動の継続・発展を支援するための看護実践モデルを開発することを目的とした。

理論基盤として Argyris & Schon の組織学習理論を適用し、活動を継続している事例の分析から、組織の規範等にもとづく通常の活動におけるシングルループ学習、および活動の節目等の従来と異なる活動におけるグループ学習が、個人および組織内で循環して、活動が維持され発展する仮説的モデル（モデル）を作成した（研究 1）。地域組織活動の支援経験を有する保健師の検討により、モデルの内的妥当性を確保し（研究 2）、モデルをもとに保健師が研究者とともに地域組織の状況をアセスメントし、対応策を導き、実用可能性を確認した（研究 3）。

審査では、本モデルの適用による保健師の支援への効果、モデルの活用方法の明示、実用可能性を高めるガイドブックの精錬等が確認され、本モデルは、保健師が組織の発展過程を理解し、強みや課題を捉え、支援の視点を見出すために有用であり、学術的・実践的意義ある博士論文と判断した。